

# 人工衛星活用したスマート農業推進へ

## 北大、タイ政府2機関と連携協力協定 農協組合省、地理情報・宇宙技術開発機関と

北海道大学とタイ農業協同組合省(MOCA)、地理情報・宇宙技術開発機関(GIS TDA)との間で連携協定が締結され、去る7月31日にタイ・バンコク近郊のインパクト・チャレンジャー・ホールで調印式が執り行われた。北大からは名和豊春総長、増田隆夫工学研究院長、横田篤農学研究院長、野口伸農学研究院副研究院長、山田敏彦国際食資源学院副院長、川野辺創国際連携機構副機構長ほか2名の教職員が出席した。

31日午前中には在タイ日本大使館の協力のもと、北大関係者と日系企業関係者などで連携協定に関する産学ミーティングを行った。タイ政府は現在『タイランド4.0』を進めており、人工衛星等を活用したスマート農業に力を入れている。今回の協定で対象とするこれらの研究領域は、北大が進めている「ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点構想」と密接に関係しており、農学研究院や工学研究院をはじめとする北大の複数の部局が関わって積極的に推進している。

同日午後に行われた調印式には関係者役100人が出席。辻泰弘北海道副知事の挨拶に続き、MOAC大臣顧問のナロン・オンサー



協定書を掲げる  
名和総長ら

ド氏が挨拶。さらに、名和豊春総長、ラートビロージ・コワッタナMOAC事務次官、アノンド・スニドボンGIS TDA長官がそれぞれ協定書に署名した。

協定締結を契機に、北大とタイとの間にこれまで以上に深い繋がりが生まれ、協力関係が活発に推進されることが期待される。